

手足口病、ヘルパンギーナが流行しております。

2017.08.07

子どもたちは楽しい夏休みですね。1年にわたったおたふくかぜの流行がようやく収まり、この夏は楽しい夏になるのかなと思っておりましたが、夏休み前から手足口病、ヘルパンギーナの流行が始まりました。夏だというのに秋から冬に流行るといわれるRSウイルス感染症や溶連菌性咽頭炎も数多くみられます。

手足口病はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスが原因となる感染症です。主な症状は、手のひらや足の裏、膝の周り、お尻などに水疱ができる病気です。時には全身に発疹ができることがあります。手のひらや足の裏に発疹ができる病気は手足口病以外にはあまり知られていないので、口の中に発疹があっても、手足に発疹があれば、手足口病といえます。ヘルパンギーナは発熱が強く、発疹が口の中に限られるものを言いますが、ウイルスはほとんど一緒です。

今年の手足口病の特徴は、最初に高熱がある人が多く、口の中の発疹だけで発症して、ヘルパンギーナかなあと思って経過を見ていると1~2日後に手足に発疹が出てくるというお子さんが多いです。また、始まりは夏休み前でもピークは9月から10月というのが毎年でしたが、夏休み前に大流行となって、いつもの年の1.5倍程度の報告数がみられています。このような大流行は手元に資料がある平成5年以降初めてのことです。

手足口病、ヘルパンギーナは一般的には軽症で終わるので、発熱がなくなり、食事が普通にできるようになれば保育園や幼稚園に復帰してかまいません。ごくまれに、髄膜炎や脳炎が起こることが知られていますので、嘔吐や頭痛などの症状が続いたり、ぐったりするようなら再度受診して、状況を見てもらいましょう。

水分をとり、熱いものはのどの痛みを増やすので、冷たいのど越しのいいものをとりながら、症状がなくなるのを待ちましょう。